

大項目	自己評価			評価	学校関係者評価	
	中項目	小項目(評価指標・具体的な取り組み)	達成状況・改善方針		評価	
I 思いやりのある豊かな心と 思いやりの育	人権教育 平和教育 道徳教育	全教育活動を通して、命や言葉の重みを知り、思いやりの心をもって行動できる生徒が育っているか。	全教育活動を通して、人権・平和・道徳教育に取り組み、命や言葉の重み等を学習した。学校評価アンケートにおいて、思いやりの心をもって行動する生徒は昨年度を上回り、95.5%であった。	A	A	学校評価アンケートの質問「教員は、生徒の相談に丁寧に応じている」に肯定的に回答した生徒の値が76.5%、87.2%、91.0%と大幅に伸びていることは評価できる。他のアンケート結果を見ても、生徒の心が育ちつつあると思われる。 学校訪問時の生徒の挨拶は気持ちが良い。 健康な心と身体は、全ての資本となるため、「徳」「体」の指導を継続してほしい。
	体力の向上 食育の推進	早寝、早起き、朝ごはん運動を推進するとともに、生徒の体力向上を図る手立てを講じているか。	朝食を食べて登校する生徒(3年生・全国調査)は、90.1%であった。「保健便り」で保健全般に係る啓発を行った。 全国調査の結果、2年生の体力は、男女とも改善傾向にある。	A		
	生徒指導	生徒理解・人間関係づくりに努め、自己肯定感を高める指導が行われているか。	日誌指導やQ-U、あったかプログラムの活用により、生徒理解、生徒同士をつなぐことに努めた。集団の一員であることを自覚させ、「学び」への適応を第一に指導にあたり、一定の成果を上げている。逸脱傾向のある生徒にも寄り添い、肯定的な評価を伝えることで改善傾向にある。	A		
II 自ら学び、学びの楽しさを 共有できる力の育	学力向上	学習意欲を喚起し、学び合いのある授業で基礎・基本の内容が生徒に理解されているか。	研究推進委員会を中心に、事前研に力を入れて全員の授業公開や年間3回の実践交流を実施し、授業づくり研究を深めた。 宿題やパワーポイントの取組も定着し、平日の家庭学習1時間以上の生徒は増加傾向にある。 学校評価アンケートの「授業がよく分かる」の項目で、肯定的評価をした生徒は、過去最高の82.2%に達した。どの教科でも自然に学び合いができていく。さらに研究を深めたい。	B	A	一昨年度、学校評価アンケートにおいて、「授業が分かる」と肯定的に回答した生徒の割合が改善したことは大いに評価できる。しかし、教職員、生徒、保護者の意識に開きが見られるため、本年度の取組を検証し、さらなる改善と向上を目指してほしい。 不登校の傾向にある生徒への家庭訪問、別室対応等、学校が組織として対応できている。成果も得ており、特別支援教育及び不登校対応において、担当者を中心に教職員が連携し、慎重かつ丁寧に対応できている。
	不登校対応	居場所のある、不登校を生じさせない学級・学校づくり、なかまづくりを組織として推進しているか。	「学校生活が楽しい」と回答した生徒は、6.2ポイント増の92.4%。「生徒は充実した学校生活を送っている」と回答した教職員は、3.3ポイント増の97.1%であった。 SSW、SCも加わっての不登校対策委員会が機能し、学校に復帰する生徒も見られる。 級友の支援や担任等による連絡・家庭訪問、別室指導等、手を尽くして改善を目指している。	A		
	特別なニーズ	特別支援学級における指導の充実と、通常学級で学ぶ生徒の支援が適切に行われているか。	特別支援学級で学習する生徒に、5教科を中心に専門の教員が定期的に学習指導を行った。教員研修や環境整備も計画的に進めている。	A		
III 志をもって社会を生きる 人づくり	キャリア教育	生き方を考えさせる時間の充実を図り、将来への展望・意欲を持たせる指導が計画的に実施されているか。	キャリア教育全体計画をもとに、3年間を見通した本校の進路学習を実践できた。 82.1%の生徒は「興味や関心がある職業がある」と回答し、90.7%の保護者が「子どもと将来についての会話ができていく」と回答している。将来の「夢と志」に関する講演を行った。	A	A	どの学年も計画的にキャリア教育に取り組んでいる。土佐の先人坂本龍馬を取り上げることににより、学校がさらに活性化しており、生誕地を有する地域住民として大変うれしく、心強い。将来の夢と志(目的)を持たせ、それを実現できる教育を今後とも期待する。 災害等緊急事態発生時の対応は、今後も計画的に進めてほしい。 PTAや地区補導員等との連携は取れている。
	防災教育	南海大地震等の来るべき災害に備え、計画的な訓練と危機管理体制の構築に努めているか。	避難訓練・学習会を3回(地震津波・火災想定)実施。地域の避難訓練を積極的に支援した。日常点検により、学校事故の防止に努めた。傷病者発生の緊急時にも迅速に適切な対応をとることができた。	A		
	地域連携	学校行事等において、PTA組織や地域と連携を図ることができているか。	PTAの活動は、例年通り行っている。行事への協力も得られている。生徒会を中心に校区小学校との連携も進んでいる。 「課題をオープンにし保護者・地域住民と協力して解決」に地域の方の92.3%が肯定的な回答。	A		
IV 組織力を生かせる 学校づくり	教職員の 資質・能力 (組織運営)	校務分掌が適切に機能し、組織を活かした学校運営がなされているか。	各委員会は定期的に開催でき、情報共有と対応が組織的にできている。 また、対応に留まることなく、生徒の状況を踏まえ、未然防止に努めるとともに、学校全体の向上につながる新たな提案もなされている。	A	A	学校評価アンケートが、総じて好結果を出していることから、学校が組織として機能していると推察する。 小学校での生徒会役員による保護者説明は、継続を希望する。 愛校作業や高知県立坂本龍馬記念館長の講演など、学校活性化につながる取り組みは、今後も継続してほしい。
	校種間連携 (小中連携)	校区小学校と連携を図り、児童生徒の9か年に渡る指導に努めているか。	小中合同の研修会の開催など、互いの取り組みを知る機会を持った。 中学生が小学校を訪問し、保護者に中学校の説明を行うとともに、小学生の加力学習に参加し、学習指導を行った。	A		
	学校活性化	学校行事等に地域の人材や外部講師を招聘するなど、多様な学習の機会を設定しているか。	防災、キャリア教育等に関し、外部講師を積極的に招聘し、生徒の学習意欲や将来の目標設定を喚起する場を設けた。	S		

経営のまとめ(成果と課題)
<p>本年度は、本校の学校教育目標である「未来をつくる 自分づくり なかまづくり」を実現に向け、土佐の先人坂本龍馬の生誕地を有する学校である縁から、「龍馬の夢と志は、城西中生徒の夢と志」のフレーズを掲げ、将来に目標を持たせ、その実現のために努力する生徒の育成に努めた。生徒による「城西龍馬新聞」の創刊は、大きな起爆剤となった。</p> <p>来校者からは、「思いやりの心のある優しい子どもが育っている。」「挨拶がよくできる。」「子どもの心に寄り添って指導に当たる教職員の姿がある。」等の評価をいただくことが多くなってきた。一昨年度末の課題となった「生徒の3人に一人は授業が分からない」「5人に一人は学校が楽しくない」の改善を、学校経営の最重要点として取り組んできた。授業づくりを中心とした取り組みを継続しつつ、これを支える基盤の強化を図った結果、昨年度以降、大幅な改善傾向にある。</p> <p>また、本校には特別な教育的支援を必要とする生徒の割合が高く、その支援方法は多くの生徒たちの学びにとっても有効であると考え、教室環境等の整備を進めることで、学習への集中や学校生活全般の落ち着いた学びを生み出すことができた。</p> <p>さらに、キャリア教育に位置づけられる行事等の導入と見直しは、ここ数年で定着し、生徒の意識にも好ましい変化が現れ、課題の改善につながったものと思われる。</p>

学校関係者評価委員のまとめ
<p>坂本龍馬を中心に据えた、学校活性化のための新たな取り組みは、地域住民として大きく評価する。</p> <p>生徒の様子や、学校評価アンケートの結果等から総合的に判断すると、学校は良好な状況にあると言える。</p> <p>今後においても、地域や保護者の理解と協力を得つつ、さらなる改善を期待する。</p>

※ 評価は、S…大変優れている、A…優れている、B…概ね満足、C…要改善の4段階で記入する。